

さくらんぼ



自ら動き、感じ、楽しむ

～笑顔あふれる幼稚園～

NO. 3 令和3年7月13日発行
山口大学教育学部附属幼稚園
URL: <http://www.vma-ka@vamauchi-u.ac.jp>

梅雨明けが待ち遠しい季節ですが、思いのほかたくさんプールに入ることができ、水遊びを楽しむことができました。また、学年を超えて友達とかかわる姿も増えていて、夏の暑さに負けずにたくましく育てている子どもたちです。



水や泡に出会って、触れて、楽しんで(花組)

梅雨の晴れ間の続いた6月、花組の環境の一つに泡遊びの場を準備しました。ふわふわの泡を立てながら、登園してくる子どもたちがどんな顔をするかなと楽しみに待っていました。すると、泡を見て「わー！楽しそう！」と喜んだり“なんだろう？”と不思議そうに見たりする子どもたちの姿が！保育者と一緒に泡の中に手を入れてみると、ふわふわの泡の感触やちょっとぬるっとした感触に一喜一憂していました。たくさん手をかき回すと、泡がどんどん膨らんでいきます。その様子を見たSくんは「見て、大きな泡になった！」と泡の変化に驚いて楽しんでいました。MちゃんとKちゃんは手元にあるカップにひたすら泡を詰めていきます。泡があふれることは気にせず、泡をすくっては入れてを繰り返し、無心になって泡に触れることを楽しんでいるようでした。ままごとハウスの横に泡を入れたタライを準備すると、子どもたちはカップやお鍋の中に泡を入れ、泡だて器でかき混ぜたりお玉ですくったりして遊んでいました。ふわふわの泡を入れたカップは“アイスクリーム”水が多めの泡は“ビール”だそうです。子どもたちは思い思いに泡を使って楽しんでいて、泡一つにもいろいろな楽しみ方があるなと改めて気づかされます。それぞれの楽しみ方を認めながら、色々な形で泡の感触や楽しさに出会ってほしいなと思いました。

6月末からは、ビニールプールを使っての水遊びも始まりました。プール初日に驚いたことは、全員水を怖がることなくプールに入れたことです！3つあるビニールプールは、それぞれの楽しみ方があり…小さいミッキーのプールはのんびりと水につかって過ごせる場、大きいプールはバタ足をしたりペットボトルのロケットシャワーを打ち上げたりしてダイナミックに遊べる場、クジラのプールは尻尾

から水のシャワーが出て頭から水をかぶったりちょっぴりリゾート気分で楽しめたりする場になっているようです。時には顔にかかって嫌がったり怒ったりすることもあります。保育者と一緒に「顔にはかけないで。」と思いを言葉にしてみたり、顔を拭いたら大丈夫という安心感がもてるように支えたりしながら、水との出会いが楽しく嬉しいものになってほしいなと思っています。水や泡の気持ちよさや冷たさなど心地よい感触を今の時期にたくさん味わって、心も体も開放して楽しんでほしいなと願っています。

(高橋)

おもしろそう、やってみよう!(風組)

夏が近づく暑い日に、裏庭に水鉄砲を出しました。やはり、水遊びは特別で予想通り大人気。ペットボトルでつくったロケットや風船を的にして元気いっぱい水鉄砲を発射します。そして、次にねらう的は先生たち。木の後ろや築山の上からこっそりねらって水鉄砲を発射すると、先生たちからも水の攻撃が返ってきます。水鉄砲の水遊びは、ますます盛り上がっていきました。また、空に向けて高く発射し、落ちてくる水の粒を「雨だ！」と言って友達を驚かせたり、「せーの！」の掛け声に合わせて、友達と一斉に水鉄砲を発射しお客さんをびしょ濡れにする噴水ショーをしたりと、ダイナミックな水遊びを楽しみました。水が顔にかかるのが心配な子どもたちも、透明なビニール袋を一枚隔てた安全地帯をつくり、霧吹きのみストを掛け合ったり、船に見立てた葉っぱを池の上流から流して友達と競争したりとそれぞれの楽しみ方で水に慣れていきました。

「風組になったら、大きいプールに行ける。」と楽しみにしていたプールでの水遊び。「Aちゃん、水着一緒だね。」「Bちゃんの水着のリボン、かわいいね。」と話しながら着替えたり、「見て、これ自分でできるよ。」と張り切って着替えたり、初めてのプールは着替えでさえ楽しみの一つです。

いい天気が続いて毎日プールで遊んだ数日後、「先生ね、こんなことができるんだ。」と保育者が水の中で四つん這いになると、「先生、牛みたい。」「ワニじゃない？」と子どもたち。「次は、カエルになってみるね。」と保育者が水の中をジャンプすると、「え、それは陸のカエルでしょ。水の中はこうだよ。」とカエル泳ぎを披露してくれたCくん。みんなで、Cくんのカエル泳ぎをまねしてやってみました。その日から、新しい泳ぎ方を考えてきてみんなの前で披露することや、友達の考えた泳ぎ方をまねすることが、毎回の楽しみになりました。「僕、今日トカゲ泳ぎやるね。」と朝から楽しみにしていたCくんが、プールでトカゲ泳ぎを披露すると「なんか手がかっこいいね。」とDくん。「そう。手をこうするんだよ。」とCくんが手の動きだけもう一度やってみせます。みんなでトカゲ泳ぎをする

と「私は、金魚泳ぎができるよ。」とEちゃん。Eちゃんのカエル泳ぎを見て「金魚泳ぎは、足をバタバタしてするんだね。」とFちゃん。そして、みんなで金魚泳ぎをしました。

友達のしていることや考えたことに、おもしろそうだなと興味をもち一緒に楽しもうとする姿を見て、心も体も気持ちのいい水遊びになりました。

(中原)



みんなで進めることを楽しんで(星組)

星組ではいろいろなお店屋を開いては年中児クラスや年少児クラスの子どもたちをお客として招いてかかわりを楽しむことが続いています。一学期の初めはお客を呼びに行くことも恥ずかしく保育者がついて行くこともありましたが、今では自分たちで顔なじみになった年下のクラスの友達に声をかけてお客を集めるようになっていきます。お客で来てくれる年少児・年中児たちもやり取りに慣れてきて楽しみにしている姿も見られます。先日はハンバーガー屋を開こうと女兒が新聞紙と茶色の包装紙でハンバーガーをつくり始めると男児らが興味をもって加わり、女兒に作り方を習いながら手伝い始めました。少し大きめのハンバーガーをつくられた友達を見て、自分たちの顔ほどの大きさの特大バーガーもたくさん出来上がりました。

「ハンバーガー屋ならポテトもいるんじゃない？」と側で踊りを楽しんでいた女兒達が「ポテトつくろうか？」と黄色い折り紙で作り始めました。ポテトを入れるケースも折り紙で折り始めるとそれをつくりたい友達が習って次々につくっていきました。商品の準備が整い、友達と誘い合ってお客を呼びに行きました。お客を呼びに行った子どもたちが帰ってくるよりも先に、年中児のお客が来ました。「お店の人がいないじゃん。」と廃材でごっこに使う武器をつくっていた男児らが気づき、お客さんを待たせないように急遽ハンバーガー屋をオープンさせました。

これまでのお店屋のやり方が共有されているので、お客に座ってもらい、メニューを見せて注文を聞くことはスムーズです。お客役の子どもたちも慣れてきているので対応や食べる真似も上手にします。保育者が間に入らなくても子どもたちで進めていくようになっていくことに成長が感じられます。

入園希望者見学会では、ダンスショーをすることを楽しんでいた女兒達が自分達で考えたばかりのダンスを披露したいと見学者を保育室に招きました。女兒の踊る曲に合わせて廃材でつくったドラムを叩く男児の姿も見られました。ダンスショーが終わるとすぐにハンバーガーショップも開店し、見学者の皆さんがお客になってくださいました。附属幼稚園の子どもたちの主体的に遊びに取り組む姿を十分に見ていただけたのではないかと思います。(高田)

